

第8回学術集会報告

第8回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会長 上月 正博

東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野 教授

副会長 伊藤 修

東北医科薬科大学医学部リハビリテーション学 教授

平成30年3月17日および18日に、第8回学術集会を仙台国際センターで開催いたしました。春先のまだ肌寒い時期ではありましたが、おかげさまで約1200名の皆様にご参加いただきました。また、演題も352題という過去最高の演題数が集まり、無事盛況のうちに終了いたしました。ご参加、ご支援下さいました皆様には心より厚く御礼申し上げます。

今回の学術集会は、「腎臓リハビリテーションの進歩と普及－CKD患者のトータルケア－」と題しました。運動療法、食事療法、教育、精神・心理社会的サポートを行い、トータルとしてCKD患者を支える、長期にわたる包括的プログラムである腎臓リハビリテーションを、さらに進歩かつ普及させることを主眼としました。

そのために本学術集会では、会長講演・海外招請講演、特別企画、教育講演、シンポジウム、日本リハビリテーション医学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本腎不全看護学会、日本フットケア学会とのジョ

イントシンポジウム、よくわかるシリーズ、YIAセッション、国際セッション、How to session、教育デモンストレーションなど多数の企画を設けました。

なかでも、トピックとしては、特別企画で取り上げた、近々発刊予定の「腎臓リハビリテーションガイドライン」や第9回学術集会で第1回試験が行われる「腎臓リハビリテーション指導士」、シンポジウムで取り上げた「腎臓リハビリテーションにおける診療報酬のありかた」などが挙げられます。こればかりではなく、いずれの会場も、あふれんばかりの熱気と活発な質疑応答が見受けられました。懇親会では、仙台名物の牛タンを始めとする郷土料理と地酒とともに、多くの皆様と交流を深めることが出来ましたのも大変うれし限りでした。

最後に、本学術集会開催の機会を頂きましたことを深く感謝申し上げます。今後、腎臓リハビリテーションのさらなる進歩と普及を願うとともに、本学会の益々の発展を祈念いたします。

